

1) 指示語を問う

◆「これ・それ・あれ」「このこと・そのこと・あのこと」などの「指示語」が何を指しているかを問う問題である。次の手順で考えよう。

- ・「指示語」を含む文をよく見る。
- ・その文の前後を見て、「指示語」の「言い換え」を探す。

☆ 例題5 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

人間は“私”の身体は周囲の自然から独立したものだ、と思っている。“私”の皮膚から外の世界は他者だ、と思っている。しかし、これは人間の個体意識が作りだした大きな錯覚だった。

人間の身体は、もともとすべての自然、すべての生命とつながったものだ。“私”はもともと“我々”だったのだ。科学技術を進歩させる過程で人間はそのことを忘れかけていた。しかし、宇宙飛行士たちは、科学技術の進歩の最先端で、逆に①そのことを思い出し始めている。

(龍村仁『地球のささやき』角川学芸出版)

問① ①そのことは何を指しているか。

- 1 私の身体は周囲の自然から独立しているということ
- 2 科学技術の進歩の過程で人間が身体を忘れてしまったということ
- 3 科学技術の進歩の最先端にいるのだということ
- 4 私の身体は地球環境とつながっているのだということ



ステップ1 本文を読んで全体をつかもう

キーワード：人間、“私”、身体、自然、“我々”、科学技術

「対比」に注目する

一般的な考え：「私」の身体は…自然から独立したもの＝「私」の皮膚から外…は他者

筆者の考え：人間の身体は…自然…生命とつながったもの＝「私」は…“我々”

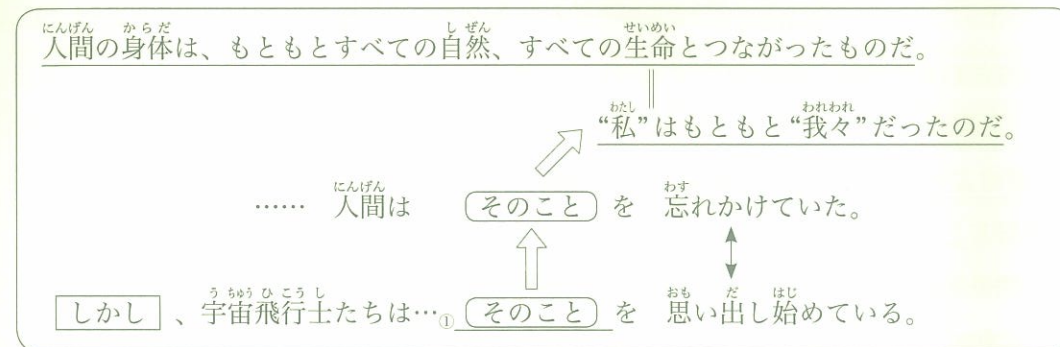
→テーマは、人間の身体と自然の関係？

ステップ2 問いを見て本文から答えを探そう

1) 「指示語」を含む文をよく見る

「しかし」、宇宙飛行士たちは、…逆に①そのことを思い出し始めている。」

2) 下線の直前の文から順にさかのぼって「言い換え」を探す



3) 2)で探した「言い換え」を「下線部」に入れて確かめる

しかし、宇宙飛行士たちは、[人間の身体は、もともとすべての自然、すべての生命とつながったものだということ]を思い出し始めている。

ステップ3 選択肢と比べよう

- 1：独立しているというのは一般的な考えだが、「錯覚」とであると書かれている。
- 2：身体を忘れたとは書かれていない。
- 3：「最先端で」思い出したと書かれている。最先端にいることを思い出したのではない。
- 4：正解(地球環境＝「すべての自然、すべての生命」)

・「答え」は、「指示語」のすぐ前にあるとは限らない。見つかるまで、どんどん「言い換え」を追っていきよう。



# 1) 指示語を問う

◆「下線部」が「指示語+N(名詞)」の場合は、「N(名詞)」をキーワードにして「言い換え」を探そう。

## ☆ 例題6 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

近所づきあいが薄れてくると、町内にどんな人が住んでいるかを知ることでもできなくなってしまいます。特に、家に引きこもりがちな、災害弱者とよばれる人の情報は欠如することが多く、市町村の防災関係部局(注1)でさえも、災害時に支援の必要な市民について把握しているところは、25%しかありません。個人情報保護法の施行以来、プライバシーに関わる情報の管理はいつそう厳しくなっていて、災害弱者をますます孤立させてしまう傾向にあります。生命にかかわる災害救助には、情報の活用を許されているとされていますが、①そのような柔軟な対応は、あまりとられていないのが実情です。

(中田実ほか『町内会のすべてが解る! 疑問・難問 100 問 100 答』じゃこめてい出版)

(注1) 防災関係部局: 役所や役場で、災害を防ぐ仕事を担当している部や課

問① そのような柔軟な対応とあるが、その説明として最も適切なものはどれか。

- 1 災害弱者とよばれる人の情報をいつでも使えるようにすること
- 2 防災関係部局の救助法に関する情報を自由に使えるようにすること
- 3 災害救助のために災害弱者の個人情報を活用すること
- 4 プライバシーに関わる情報を防災に関係なく活用すること

## ステップ1 本文を読んで全体をつかもう

キーワード: 町内、災害弱者、情報、プライバシー、救助

「災害弱者」=「災害時に支援の必要な市民」

→テーマは、町内の災害弱者と、そのプライバシーについての問題?

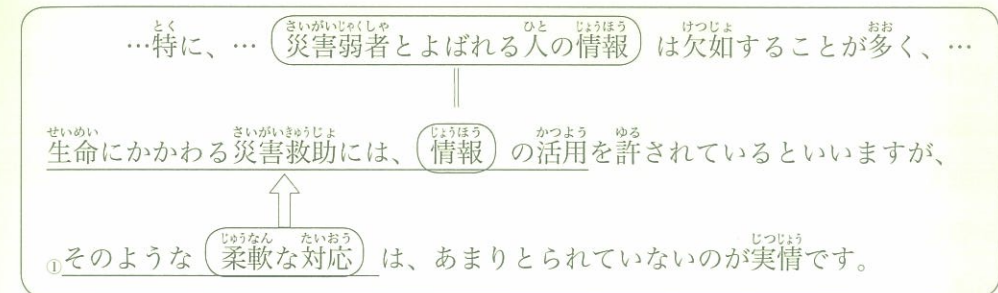
## ステップ2 問いを見て本文から答えを探そう

### 1) 「指示語」を含む文をよく見る

「...といます が、①そのような柔軟な対応は、あまりとられていないのが実情です。」

指示語+「N(名詞)」

### 2) 「柔軟な対応」の「言い換え」を探す



### 3) 2) で探した「言い換え」を「下線部」に入れて確かめる

[生命にかかわる災害救助に、災害弱者とよばれる人の情報を活用するという対応]は、あまりとられていないのが実情です。

## ステップ3 選択肢と比べよう

- 1: 「生命にかかわる災害救助には」という条件があり、いつでも使えるのではない。
- 2: 救助法に関する情報ではなく、「災害弱者とよばれる人の情報」である。
- 3: 正解
- 4: 防災に関係なく使えるようにするのではない。

## 指示語を問う

練習 18 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

眠ってからしばらくすると、レム (REM) 睡眠というものが始まる。マブタがピクピクする。このレムの間に、頭はその日のうちにあったことを整理している。記憶しておくべきこと、すなわち、倉庫に入れるべきものと、処分してしまってよいもの、忘れるものとの区別が行なわれる。自然忘却である。

朝目をさまして、気分爽快であるのは、夜の間、頭の中がきれいに整理されて、広々としているからである。何かの事情で①それが妨げられると、寝ざめが悪く、頭が重い。

朝の時間が、思考にとって黄金の時間であるのも、頭の工場の中がよく整頓されて、動きやすくなっているからにほかならない。

(外山滋比古『思考の整理学』筑摩書房)

問い ①それは何を指しているか。

- 1 その日にあったことをしっかりと記憶しておくこと
- 2 十分な睡眠をとって、気分爽快に目覚めること
- 3 頭の中が整頓できるように、よく思考すること
- 4 記憶すべきことだけ残し、要らないものは忘れること

## 指示語を問う

練習 19 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

私企業の主導的原理である「自己利益の追求」に衝き動かされて馬車馬のようにさんざん働いた親の世代を見て、今の若者は「彼らは結局のところ幸せだったのか」と問い直し、そうした生き方を考え直そうとしている面が確実にある。「不況の中の豊かさ」とも言える不思議な環境を享受する、ある意味で幸運な時代に生きているからこそ、若者は「何らかの活動を通じて自分なりに何か生きがいを見つけたい」「人とつながることによって喜びや充実感をともに感じたい」「だれかの役に立つことによって自分自身の居場所を見つけたい」という願望を実現できる可能性を感じとっている。①こういう意識が若者を、広い意味のボランティアな活動<sup>(注1)</sup>に向かわせているのだ。

(丸楠恭一、坂田顕一、山下利恵子『若者たちの《政治革命》 組織からネットワークへ』中央公論新社)

(注1) ボランティアな活動：参加者が金銭的な報酬なしで協力する活動。募金活動や福祉活動のことが多い。

問い ①こういう意識とはどのような意識か。

- 1 自分の居場所や生きがいが見つけられるかもしれないという意識
- 2 馬車馬のように働くのではなく、もっと楽に生きたいという意識
- 3 「不況の中の豊かさ」とも言える幸運な時代を生きているという意識
- 4 自分の願望が実現できるかどうかを感じとろうとする意識

## 練習20 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

ポール・セローのある小説の中で、アフリカにやって来たアメリカ人の女の子が、なぜ自分が世界のあちこちをまわりつづけることになったかについて語るシーンがあった。ずっと昔に読んだ本なので、台詞の細かいところまでは正確には覚えていないので、まちがっていたらごめんなさい。でもだいたいこんな内容だったと思う。「本で何かを読む、写真で何かを見る、何かの話を聞く。でも私は自分で実際にそこに行ってみないと納得できないし、落ち着かないのよ。たとえば自分の手でギリシャのアクロポリスの柱を触ってみないわけにはいかないし、自分の足を死海の水につけてみないわけにはいかないの」。彼女はアクロポリスの柱を触るためにギリシャに行き、死海の水に足をつけるためにイスラエルに行く。そして彼女はそれをやめることができなくなってしまうのだ。エジプトに行ってピラミッドに上り、インドに行ってガンジスを下り……、そんなことしても無意味だし、キリないじゃないかとあなたは言うかもしれない。でも様々な表層的理由づけをひとつひとつ取り払ってしまえば、結局のところ①それが旅行というものが持つおそらくはいちばんまっとうな動機であり、存在理由であるだろうと僕は思う。

(村上春樹『辺境・近境』新潮社)

## 問い ①それは何を指しているか。

- 1 自由になりたいという欲求
- 2 旅を続けたいという欲求
- 3 現実的な感触への欲求
- 4 無意味な行動への欲求

## 練習21 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

愛情には、相手を尊重し、相手に不快感を与えたくないといった気持ちが含まれているだろう。けれども、相手を束縛せずにはいられない側面をも持つ。「あなたを愛しているからこそ、あなたにはこのようにしてほしい」「大切なあなただからこそ、こんなことはしないでほしい」といった気持ちが生じてくるのは当然であり、そうでなかったら愛情とは呼べまい。つまり相手に関心があり好意があればあるほど、無意識のうちにその相手をコントロールしたくなる。人の心にはそのような宿命がある。さらに、他人にコントロールされることは押し付け・強制・無理強い・束縛といった具合にマイナスイメージで想像してしまいがちだが、必ずしも不快で窮屈だとは限らない。もしもわたしが本気で陶芸家(注1)にでもなりたいと考え、尊敬する作家のところへ弟子入りした(注2)とする。わたしは師匠に指導を受けることのみならず、あれこれ命じられたり無理難題を言われたり罵声を浴びせられることにすら充実感と喜びを覚えるのではないだろうか。尊敬する師匠にコントロールされることが、ひたすら嬉しく感じられそうに思える。おそらくアスリートとコーチとの関係にも似たところがありそうな気がするし、監督と俳優との間にも①そんな図式が成立することはあるかもしれない。

(春日武彦『精神科医は腹の底で何を考えているか』幻冬舎)

(注1)陶芸家：茶わんや皿を作る芸術家

(注2)～へ弟子入りする：～を師匠(指導者)にして、教えてもらう関係になる

## 問い ①そんな図式とは何か。

- 1 指導者が弟子をコントロールしたいと考える関係
- 2 弟子が指導者にコントロールされることに喜びを感じる関係
- 3 弟子も指導者も無意識に相手をコントロールしてしまう関係
- 4 弟子と指導者がコントロールし合うことに充実感を覚える関係